



# ケンブンスイッチ 10月号



## 「読書の秋」なので、本の復刻について考えてみました。

ページをめくる音、紙の温もりとインクの香り…紙の本には、電子書籍からは得られない、五感を刺激する何かが潜んでいるような気がします。大河ドラマ『光る君へ』では、『枕草子』や『源氏物語』が筆で紙にしたためられる瞬間がクローズアップされ、想いを伝える媒体としての「紙」に注目が集まりました。そんな実体のある紙の本だからこそ、すでに絶版となってしまった貴重な書籍や年度版の冊子、さらには以前に自費出版した本、愛着のある本、無くなっては困る本などがあるのではないのでしょうか。「復刻して増刷したいけど、昔の本だから印刷データがない…」「日に焼けてしまった本を甦らせたい…」「手書きの画文集を増刷したい…」等々、本の復刻や増刷に関するご要望、ご質問は、どんなことでも研文社にご相談ください。最適な印刷方法を、親身になってご提案させていただきます。



研文社「出版印刷」

<https://www.kenbunsya.jp/service/publication/>



Ken's「KEN BOOKS project」

<https://ken-s.co.jp/kenbooks>

